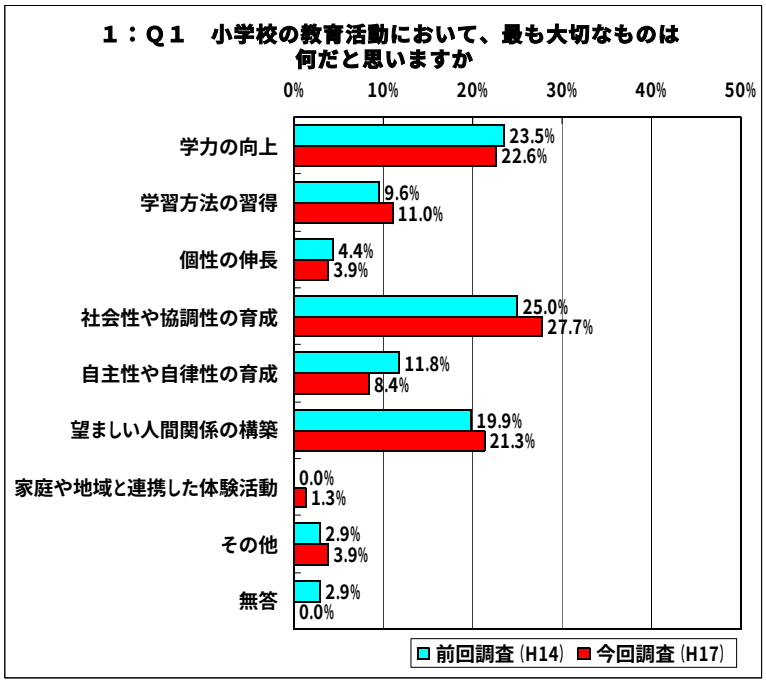
1　学校の教育活動において大切なもの

学級担任　1　学校の教育活動において、最も大切なものは何だと考えますか

⇨ **小・中「社会性・協調性」、高「学力の向上」、盲聾養「社会参加できる自立心」**　小・中・高・盲聾養 Q1・Q1・Q1・　Q1

小学校



《小学校》

○　前回上位を占めた項目は、今回も上位となっている。「社会性や協調性」が増加し３割弱、「学力の向上」「人間関係」が２割を超えて続き、この３項目が他の項目より目立っている。

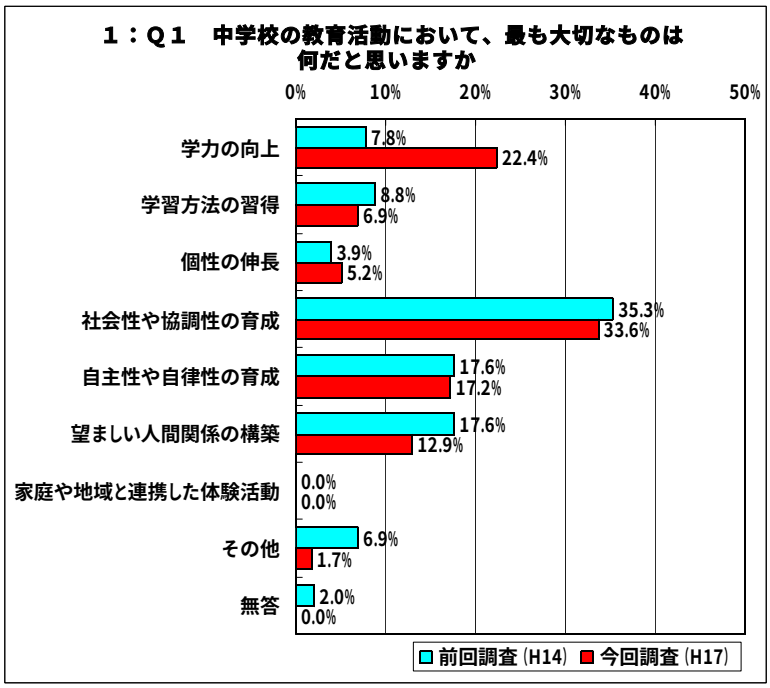
　「自主性や自律性」は、やや減少傾向にある。

○　「社会性や協調性」が多いのは、小保護者の傾向と一致している。

　「学力の向上」の割合も多いが、「人間関係」も上位にあることから、小学校では、学習以前に、集団に適応して学校生活を送ることに重きを置いて指導していることがうかがえる。

【参考】保護者１、保護者２

中学校



《中学校》

○　前回、一番多かった「社会性や協調性」の割合は、やや減少しているが、他の項目より多い。

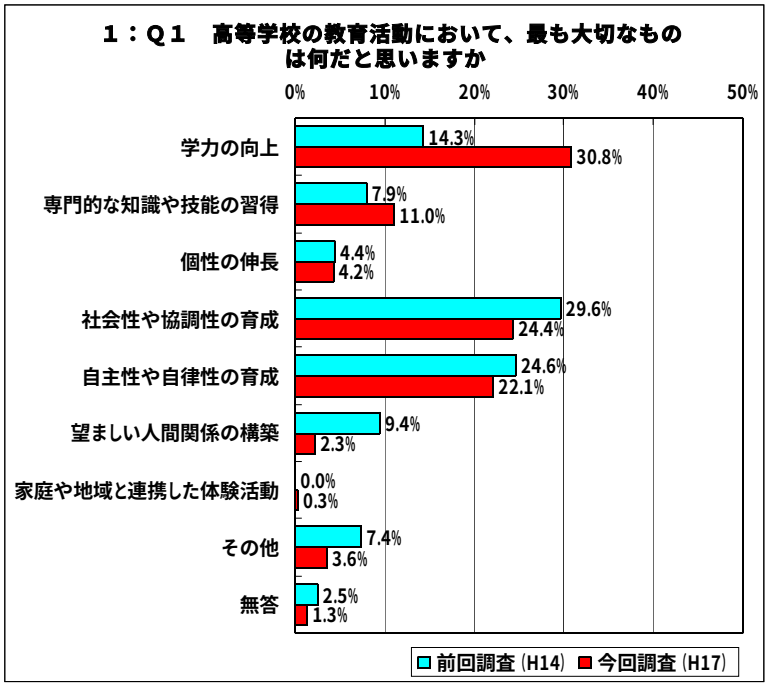
　前回１割に満たなかった「学力の向上」は、大きく増加し、２割を超えている。「自主性や自律性」と同程度の割合を示していた「人間関係」は、今回、減少している。

○　「社会性や協調性」が多いのは、中保護者の傾向と一致している。

　「学力の向上」の伸びが大きいことから、本県の重要課題である学力の向上について、中担任の意識が前回より大きく変化し、学力の向上に向けた指導に力を入れていることがうかがえる。

【参考】保護者１、保護者２

高等学校



《高等学校》

○　前回、一番多かった「社会性や協調性」の割合は減少し、「自主性や自律性」も減少傾向がみられる。

　一方、「学力の向上」は、大きく増加し、３割を超えて、選択項目の中で一番多い。

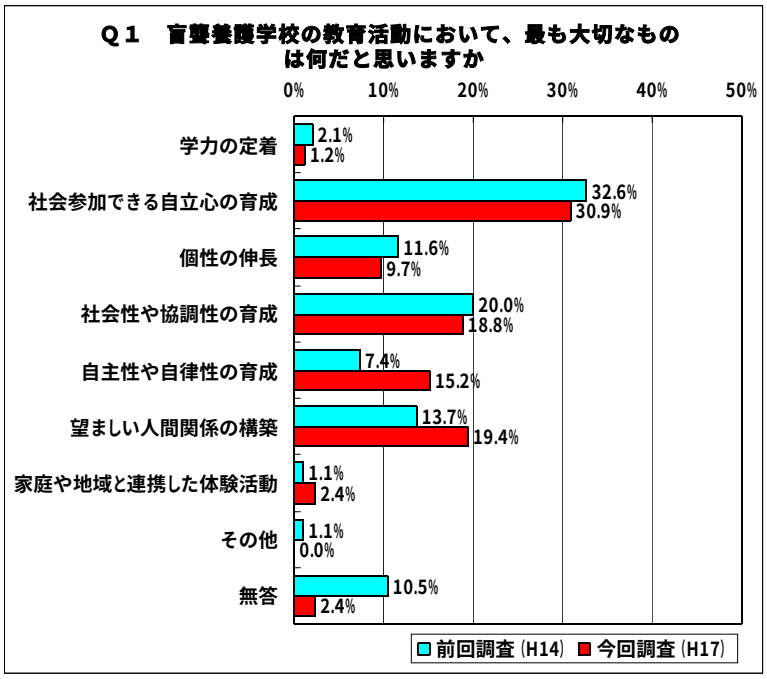
　「人間関係」は、今回、大きく減少している。

○　「学力の向上」が一番多いのは、高保護者の傾向と一致しており、ともに、前回より大きく増加している。

　本県の重要課題である学力の向上について、高担任の意識が、前回より大きく変化し、学力の向上に向けた指導に力を入れていることがうかがえる。

【参考】保護者１、保護者２

盲聾養護学校



《盲聾養護学校》

○　前回と比較して、全体的な傾向に大きな変化はみられない。

　「社会参加できる自立心」が、若干減少したものの３割を超えている。

　「人間関係」が増加し、やや減少した「社会性や協調性」とともに、約２割ほどを占める。

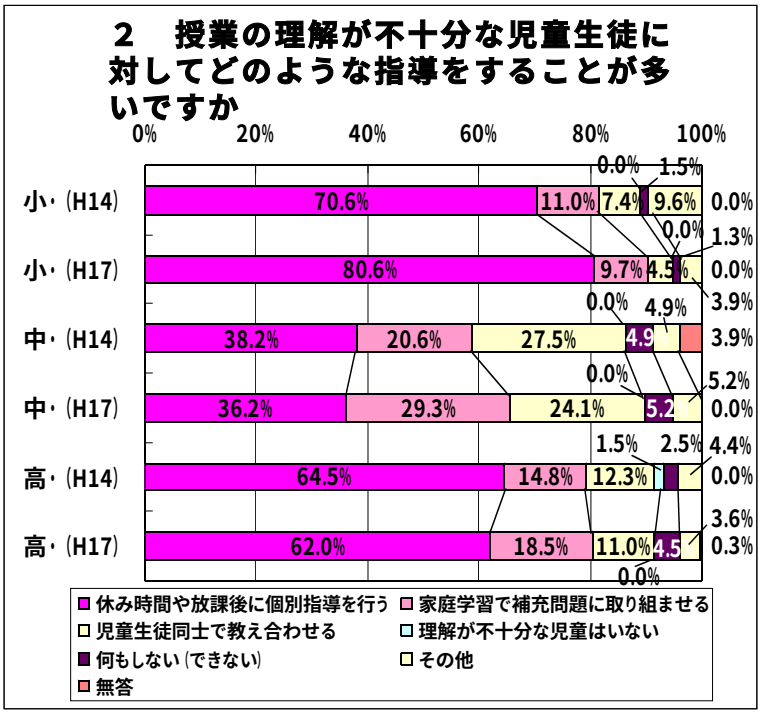
　「自主性や自律性」が大きく増加している。

○　盲聾養保護者の結果よりも、「人間関係」の割合が３倍以上みられることから、個の成長とともに、集団における個の在り方にも重きを置いて指導していることがうかがえる。

【参考】保護者１、保護者２

2　授業での理解が不十分な児童生徒への指導について

学級担任　2　授業での理解が不十分な児童生徒に対して、どのような指導をすることが多いですか　　小・中・高
⇒「個別指導」、小８割、中４割、高６割　　Q2・Q2・Q2

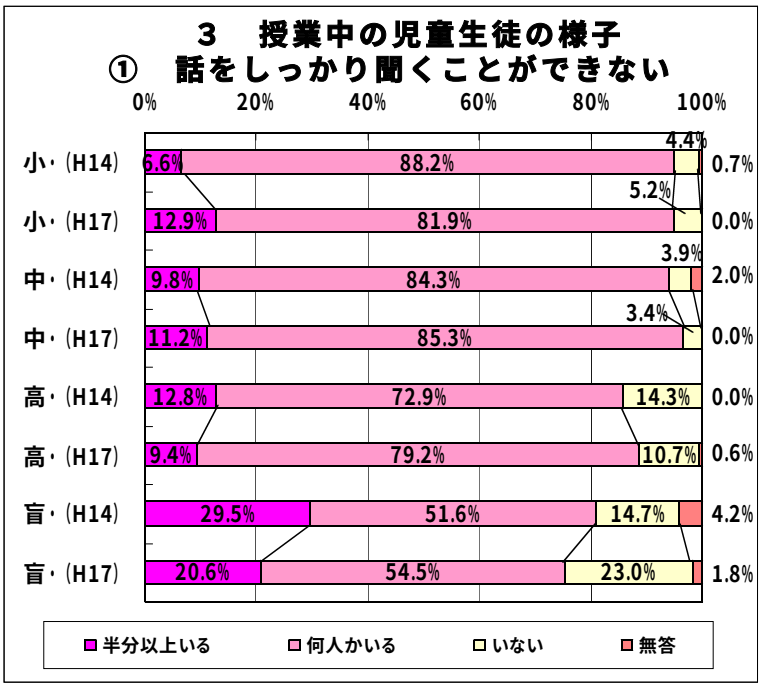


○　どの校種も「個別指導」の割合が多い。
　小担任では、「個別指導」が前回より増加し、８割を占める。
　中担任では、「個別指導」がやや減少し、「家庭学習」が増加している。「生徒同士」も約1/4みられる。
　高担任では、「個別指導」がやや減少したものの６割を占める。
○　小担任、高担任では、「個別指導」による対応が多くみられるが中担任では、「個別指導」とともに「家庭学習」「生徒同士」も比較的多い。校種により、指導の手だてに違いがみられる。

【参考】児童生徒２、保護者３－①
児童生徒３

3　授業中の児童生徒の様子について

学級担任　３－①　話をしっかり聞くことができない　　小・中・高・盲聾養
⇒どの校種にも７～９割みられる　　Q3・Q3・Q3・　Q2



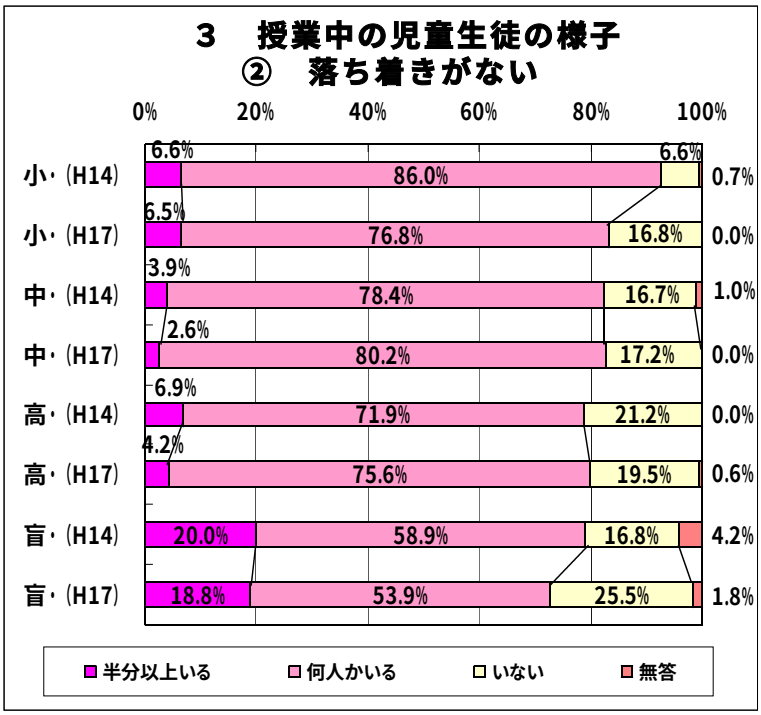
○　小担任では、前回と変わらず肯定的な回答が９割以上みられる。「半分以上」も増加している。
　中担任では、肯定的な回答が、前回よりやや増加し、小学校より多い割合となっている。
　高担任では、「半分以上」が減少しているが、肯定的な回答が９割近くを占める。
　盲聾養担任では、肯定的な回答が減少し、「半分以上」の割合も、大きく減っている。
○　授業中にしっかり話を聞くことができない児童生徒は、どの校種にも、依然多くみられることから、学習訓練にとどまらず、日常的な場面での指導も求められる。

【参考】児童生徒４－①

学級担任　３－②　落ち着きがない

⇨ ７～８割の担任が「いる」と回答

小・中・高・盲聾養
Q4・Q4・Q4・　Q3



○　小担任では、前回より肯定的な回答が減少したが、約８割みられる。

　中担任、高担任は、前回とほとんど変化がみられない。

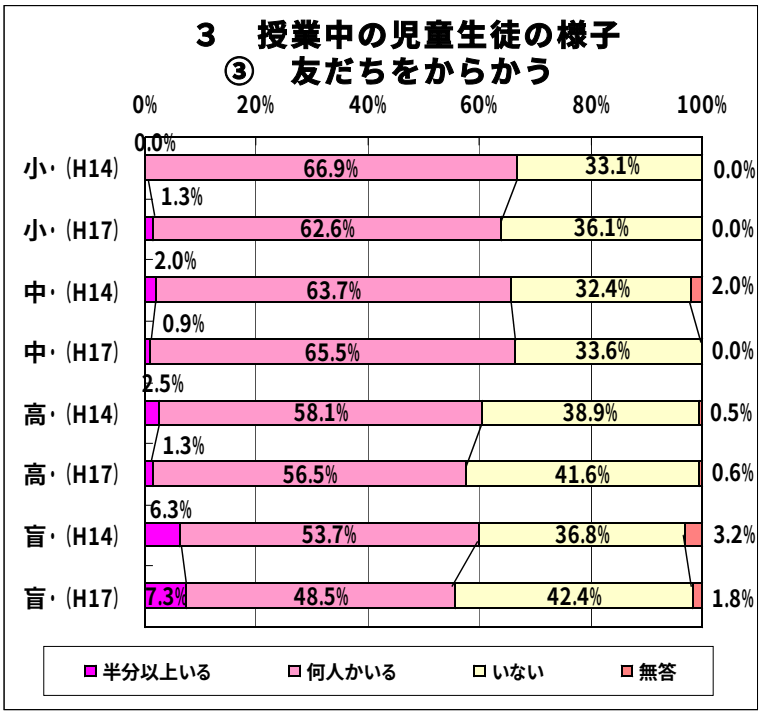
　盲聾養担任では、肯定的な回答が約７割に減少している。「半分以上」の割合も、前回とほとんど変わらず、２割程度みられる。

○　授業中に落ち着きがない児童生徒は、小学校、盲聾養護学校で減少傾向にあるが、全体的にみると依然として８割程度みられる。その要因が、例えば授業によるものであれば、授業改善策を講じていく等、実状を把握し、必要な対策を進めていく必要がある。

学級担任　３－③　友だちをからかう

⇨ ６～７割程度の担任が「いる」と回答

小・中・高・盲聾養
Q5・Q5・Q5・　Q4



○　小担任、中担任では、肯定的な回答が、前回と同様に７割弱みられる。

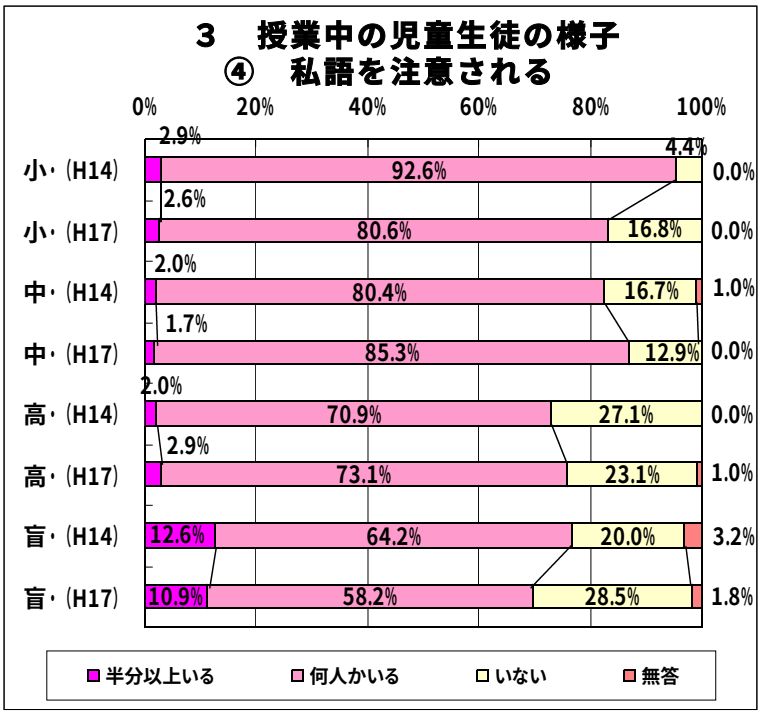
　高担任では、前回より若干減少し６割を下回っている。「半分以上」も減っている。

　盲聾養担任では、やはり前回より減少し６割弱となっている。「半分以上」の割合は、他の校種より高い。

○　全体的にみると、肯定的な回答は、６～７割と、前回と似た傾向にあることから、授業中に友だちをからかう児童生徒は、減ってはいないことがうかがえる。学習場面にとどまらず、日常的な場面における指導と学級経営の在り方等についての再検討が求められる。

学級担任　３－④　私語を注意される

⇨　７～９割の担任が「いる」と回答　　小・中・高・盲聾養　Q6・Q6・Q6・　Q5



○　小担任では、肯定的な回答が前回より減少したが、８割程度みられる。

　中担任では、前回より増加し、９割程度、高担任でも、前回より増加して７割強、盲聾養担任は、前回より減少し、７割程度みられる。

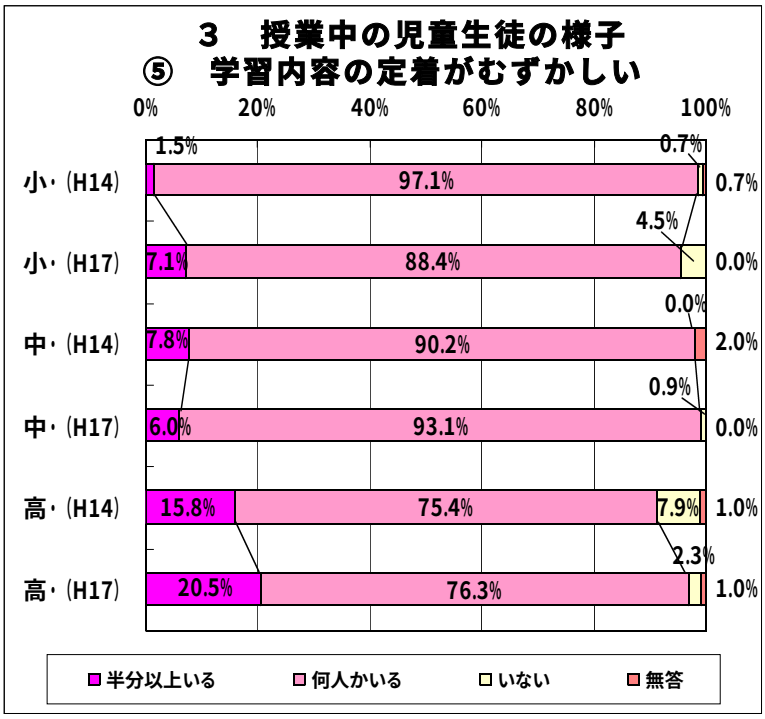
　盲聾養担任では、「半分以上」の割合が、他の校種より多い。

○　全体的に７割以上の担任が「いる」と回答している。私語を注意される児童生徒は、小学校、盲聾養護学校では減少する傾向がみられるが、中学校、高校では、やや増加する傾向がみられる。授業中に限らず、場面に応じた態度について、日常的に指導していく必要がある。

【参考】児童生徒４－⑥

学級担任　３－⑤　学習内容の定着がむずかしい

⇨　９割以上の担任が「いる」と回答　　小・中・高　Q7・Q7・Q7



○　小担任では、前回よりやや減少したものの、「いる」という回答が９割を超えている。「半分以上」が増加傾向にある。

　中担任では、前回と同様に、担任のほぼ全員が「いる」と回答している。

　高担任では、前回より増加し、９割を大きく超える担任が「いる」と回答している。「半分以上」の割合も増加し、２割を超えている。

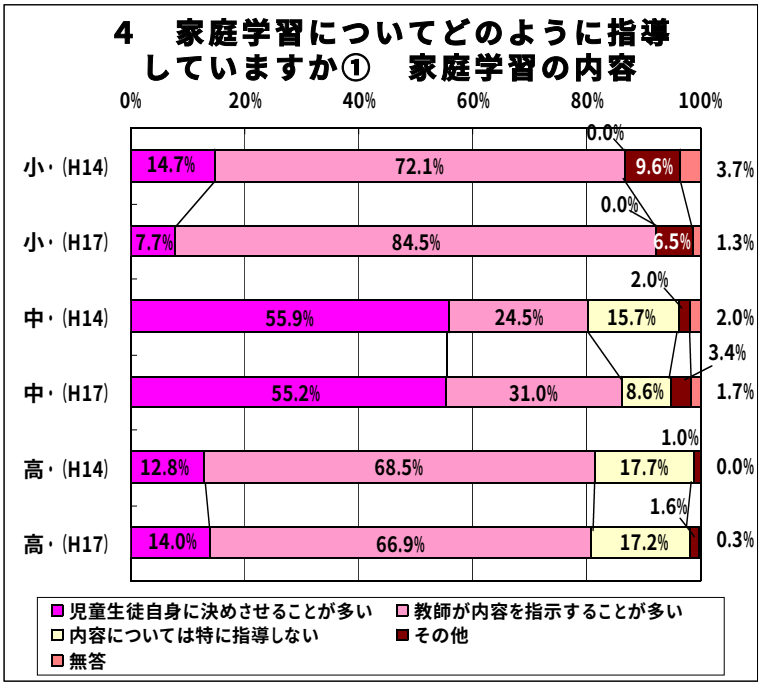
○　全体的に、どの校種の担任も、その９割以上が、学習内容の定着が難しい児童生徒がいると回答しており、学力向上等に向け、早急に根本的な改善策を講じることが求められる。

【参考】児童生徒２
児童生徒４－③

4　家庭学習の指導について

学級担任　４－①　家庭学習の内容

⇒ 小・高は「教師が指示」、中は「生徒自身が決める」　　小・中・高 Q8・Q8・Q8



○　小担任では、「教師が指示」が前回より増加し、８割を超えている。「児童自身」が半減している。

　中担任では、前回より「教師が指示」が増加し３割を超えているが、「生徒自身」が前回と同様に５割を超えている。

　高担任では、７割弱が「教師が指示」で、「生徒自身」が少ない。

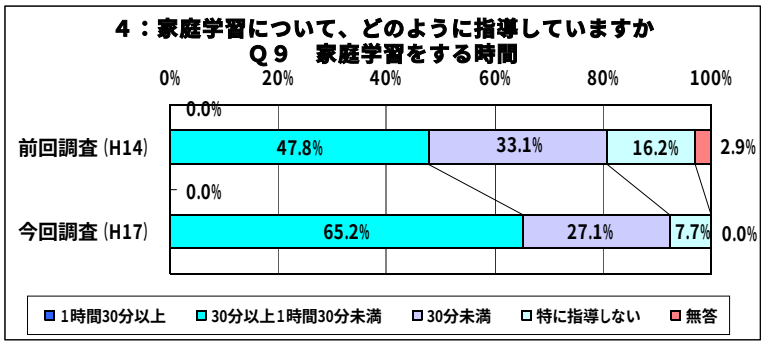
○　中担任は、生徒に家庭学習の内容を決めさせる傾向が強くみられるが、小担任、高担任は、家庭学習の内容を教師が指示をする傾向が強いことがわかる。

【参考】児童生徒６－①
保護者５－①、５－③
５－④

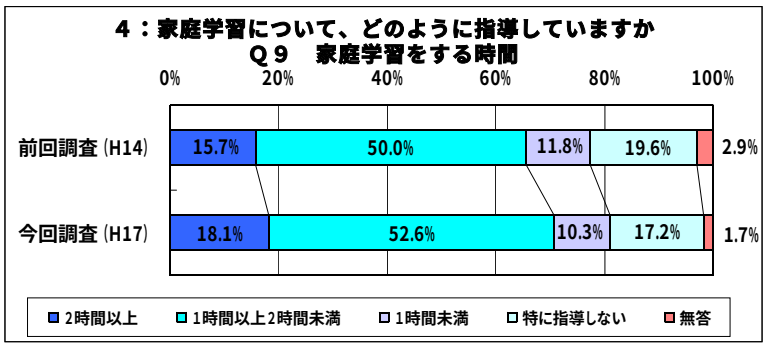
学級担任　４－②　家庭学習の時間

⇒ 指導の成果が表れているのは小学校　　小・中・高 Q9・Q9・Q9

小学校



中学校



《小学校》

○　小担任では、「30分以上１時間30分未満」の増加が大きく、６割を超えている。「30分未満」「指導しない」は減少している。

○　小児童の調査結果では、児童の半数が家庭学習時間「30分以上１時間未満」であることから、担任の指導がおおむね妥当であるといえる。

【参考】児童生徒６－②
保護者５－②、５－③、５－④

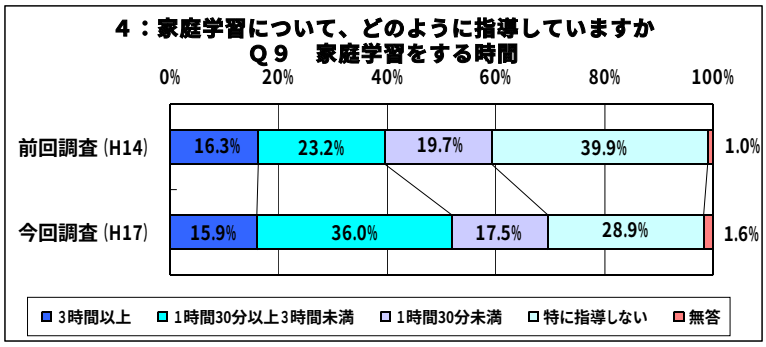
《中学校》

○　中担任では前回と大きな変化はみられない。１時間以上の学習時間の項目の割合が増加している。

○　中生徒の調査結果では、生徒の４割が家庭学習時間「30分以上１時間未満」であることから、担任の指導が生徒の学習時間に反映されているとはいえない。

【参考】児童生徒６－②
保護者５－②、５－③、５－④

高等学校



《高等学校》

○　高担任では、「１時間30分以上３時間未満」が大きく増加している。「指導しない」は減少しているが、依然３割近い。

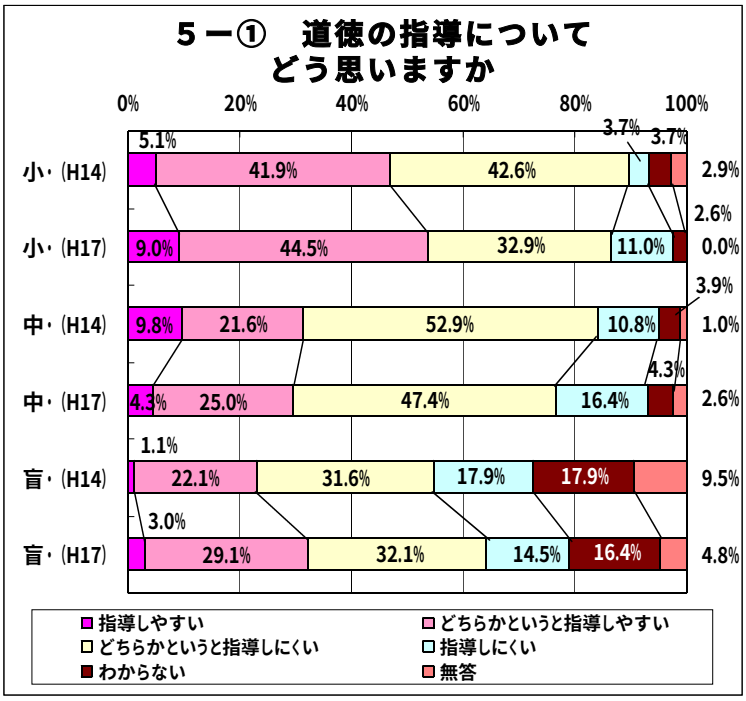
○　高生徒の調査結果では、生徒の４割が家庭学習時間「30分以上１時間30分未満」であることから、担任の指導が生徒の学習時間に反映されているとはいえない。

【参考】児童生徒６－②
保護者５－②、５－③、５－④

5　次の時間の勉強や行事の指導についてどのように感じていますか

学級担任　５－①　道徳

⇨　「指導しやすさ」、小・盲聾養担任の４割強、中担任の６割強が否定的回答　　小・中・盲聾養 Q10・Q10・Q6



○　小担任では、「指導しやすい」「どちらかといえば指導しやすい」を合わせた肯定的な回答が、前回より増加し半数を超えているが、「指導しにくい」が増加し、否定的な回答も４割を超える。

　中担任では、肯定的な回答が、前回よりやや減少し３割程度。否定的な回答が６割を超えている。

　盲聾養担任では、肯定的な回答が前回より増加し、３割を超えたが、否定的な回答が依然５割近くみられる。

○　全体的にみると、道徳は指導しにくいと考えている担任が多いことがうかがわれる。特に中担任ではその傾向が顕著である。

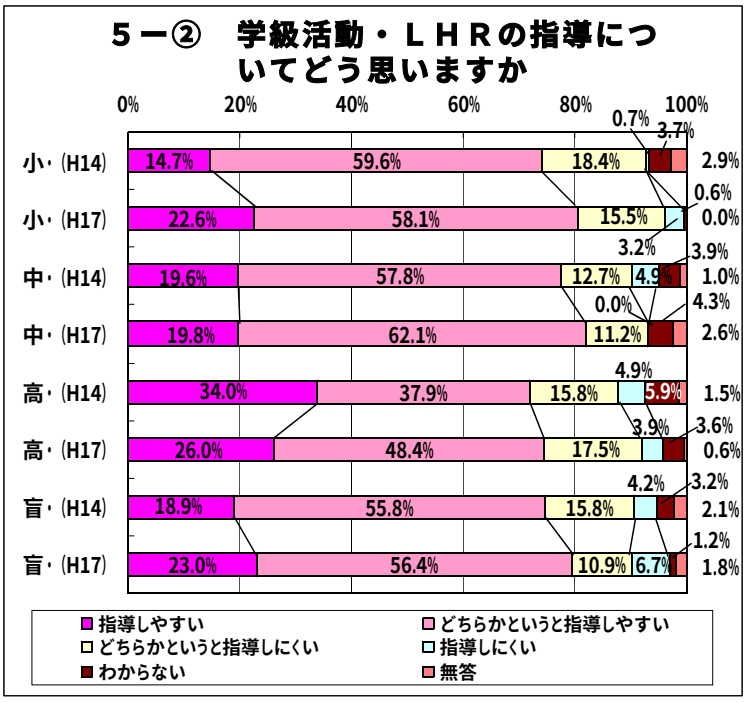
　道徳が指導しにくいと考える要因について把握し、必要な改善等が行われ、望ましい状況で道徳の授業が進められることが求められる。

【参考】児童生徒５－①

学級担任　５－②　学活（学級活動）・ＬＨＲ

⇨ 担任の約７～８割は「指導しやすい」

小・中・高・盲聾養
Q11・Q11・Q10・　Q7



○　小担任では、「指導しやすい」「どちらかといえば指導しやすい」が前回よりともに増加し、合わせた肯定的な回答が、８割を占める。

　中担任でも、肯定的な回答が前回より増加し、８割を超えている。

　高担任では、前回より強い肯定は減少したが、肯定的な回答はやや増加している。

　盲聾養担任では、小担任と似た傾向にあり、肯定的な回答が８割近い。

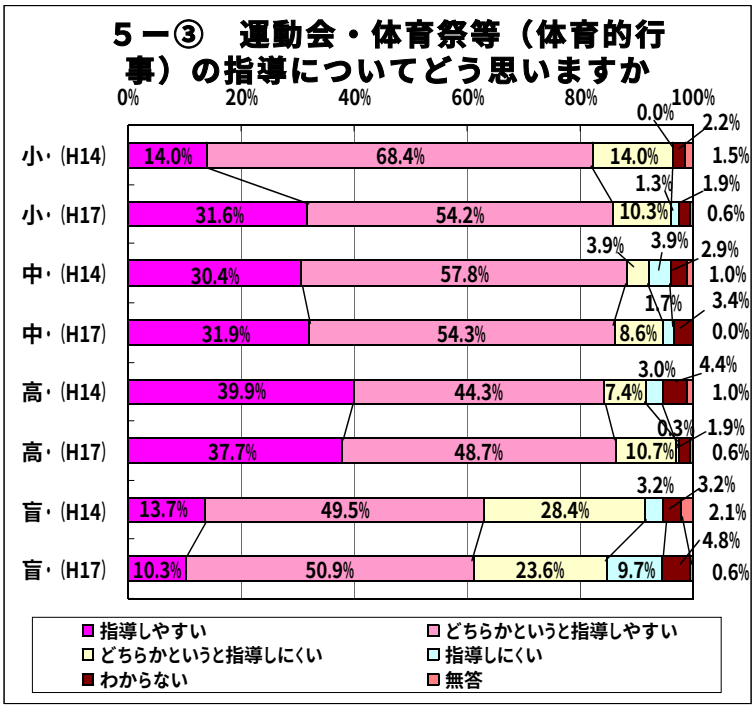
○　全体的に約８割程度の担任は、学活（学級指導）等の指導はしやすいと感じていることがうかがえる。

【参考】児童生徒５－②

学級担任　５－③　運動会・体育祭・スポーツ大会（体育的行事）

⇨ 小・中・高担任の８割超が「指導しやすい」

小・中・高・盲聾養
Q12・Q12・Q11・　Q9



○　小担任では、「指導しやすい」が前回より大きく増加し、「どちらかといえば指導しやすい」と合わせた肯定的な回答も９割近い。

　中担任では、前回より肯定的な回答がやや減少したが、８割を超えている。

　高担任では、前回より肯定的な回答がやや増加し、９割近い。

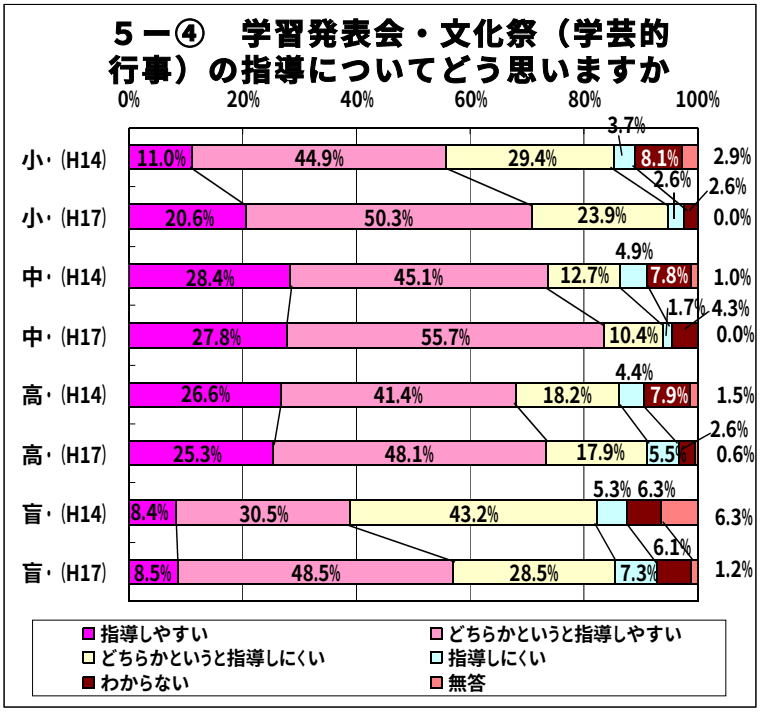
　盲聾養担任では、前回より肯定的な回答がやや減少し、６割程度となっている。

○　小・中・高校では、８割を超える担任が指導しやすいと思っているが、盲聾養担任は、校種の特性から、指導の難しさをよりいっそう感じていることがうかがえる。

【参考】児童生徒５－③

学級担任　５－④　学習発表会・文化祭（学芸的行事）

⇨ 中担任の８割超が「指導しやすい」　小・中・高・盲聾養
小・高・盲聾養担任で約６～７割　Q13・Q13・Q12・Q10



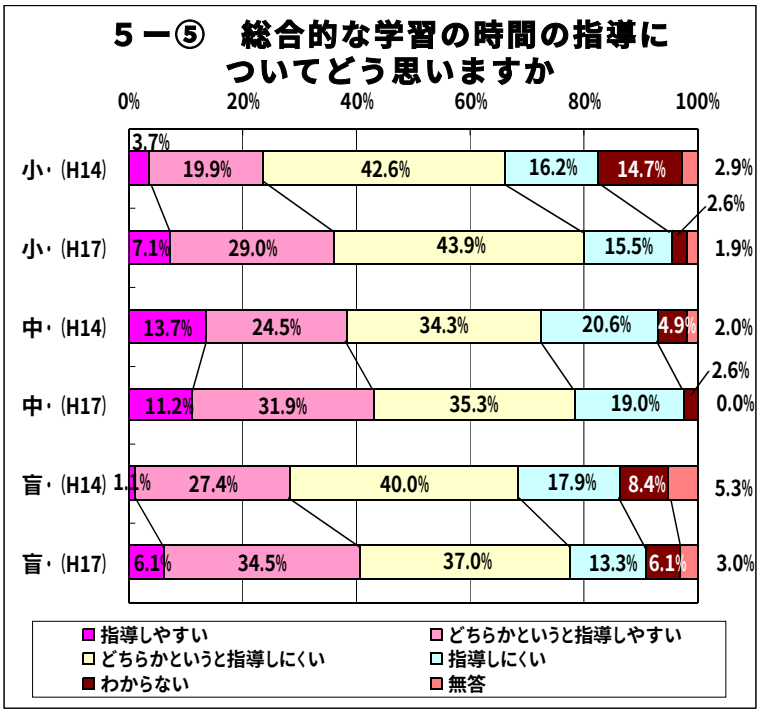
○　小担任では、「指導しやすい」「どちらかといえば指導しやすい」を合わせた肯定的な回答が、前回より増加し、７割を超えている。
　中担任、高担任でも、前回より肯定的な回答が増加し、それぞれ８割、７割を超えている。
　盲聾養担任では、他の校種より少ないが、前回より大きく増加し、６割近い。

○　どの校種でも、前回より、学習発表会・文化祭等について指導しやすいと思っている担任が増加している。内容等を精選したり、限られた時間の中で指導し、目標を達成できるような様々な工夫等によるものと思われる。

【参考】児童生徒５－④

学級担任　５－⑤　総合的な学習の時間

⇨ 担任の約５～６割が「指導しにくい」　小・中・盲聾養
Q14・Q14・Q13



○　小担任では、「指導しやすい」「どちらかといえば指導しやすい」を合わせた肯定的な回答が、前回より増加しているが、４割に満たない。中担任、盲聾養担任でも、前回より肯定的な回答が増加しているが、ともに４割を超えた程度である。
　どの校種でも、否定的な回答が、５～６割みられる。

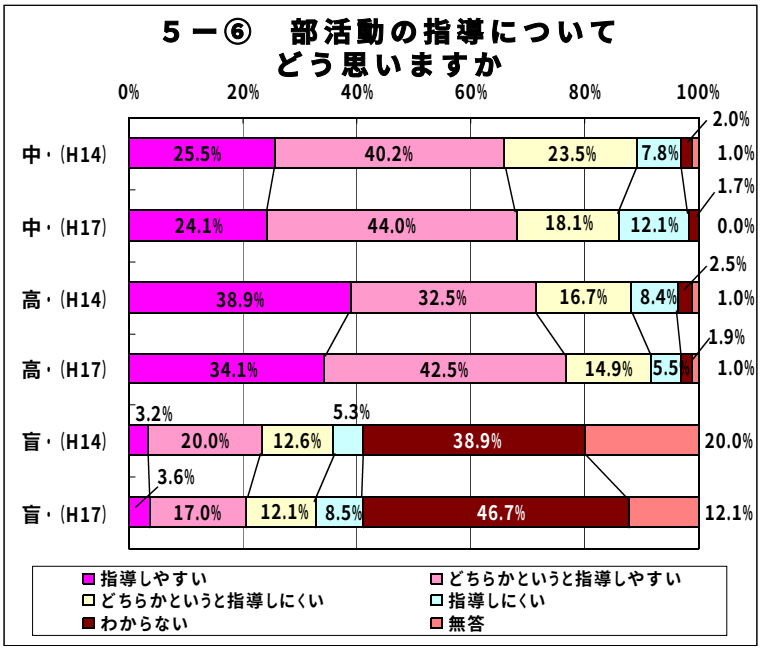
○　前回より肯定的な回答の増加がみられるが、否定的な回答が半数以上みられ、依然として、総合的な学習の時間は指導しにくいと思っている担任が多いことがうかがえる。本格導入後、４年を経ており、指導について検証することが必要と思われる。

【参考】児童生徒５－⑤

学級担任　５－⑥　部活動

⇒ 中・高担任の2/3は「指導しやすい」

中・高・盲聾養
Q15・Q13・　Q11



○　中担任、高担任とも「指導しやすい」「どちらかといえば指導しやすい」を合わせた肯定的な回答が、前回よりやや増加し、約７割程度みられる。

　盲聾養担任では、前回より肯定的な回答が２割近くまで減少し、「わからない」が約半数を占める。

○　中担任・高担任では、2/3以上が指導しやすいと思っていることがうかがえる。

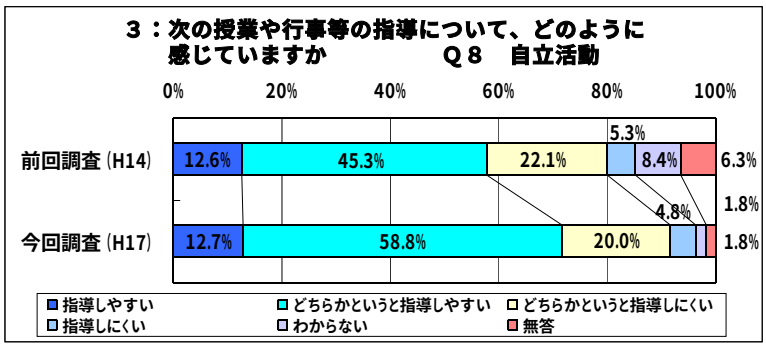
　盲聾養担任では、校種の特性から部活動の指導そのものを行っていない場合もあり、中学部で指導にあたっている担任は４割程度とみられる。

【参考】児童生徒５－⑥

学級担任　５－⑦　自立活動

⇒ 担任の2/3以上が「指導しやすい」

盲聾養
Q8



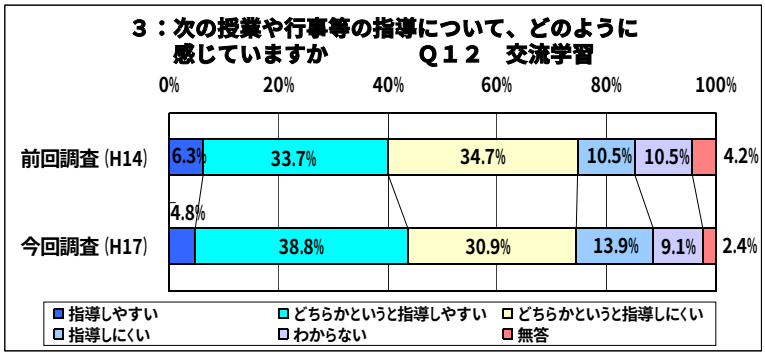
○　前回より、肯定的な回答が増加し、７割近くを占める。

○　担任の2/3以上が、自立活動について、指導しやすいと回答しており、前回より、指導における工夫や改善等が行われていることがうかがえる。

学級担任　５－⑧　交流学習

⇒ 「指導しやすさ」、肯定・否定が分かれる

盲聾養
Q12



○　前回より、肯定的な回答がやや増加しているが、４割を超える程度である。

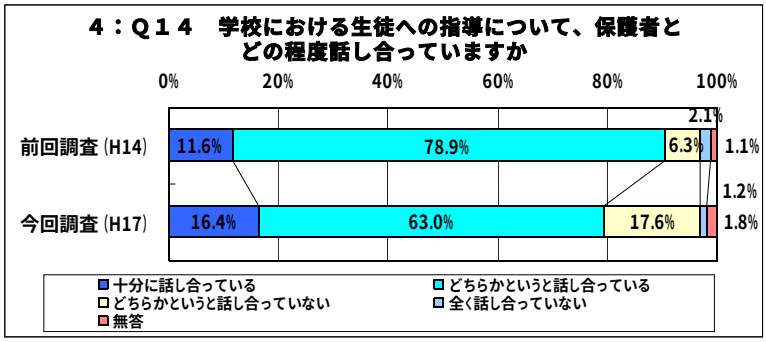
○　肯定的な回答と否定的な回答がほぼ同程度みられることから、依然として交流学習の指導が難しいと思っている担任が多いことがうかがえる。

【参考】児童生徒５－⑦
　　保護者４－⑥

6　保護者との話し合いの程度

学級担任　6　学校における生徒への指導について、保護者とどの程度話し合っていますか　　**盲聾養**

⇨「話し合っている」９割から８割に減少　　**Q14**



○　前回より「十分に」の割合は増加しているが、肯定的な回答を合わせると約８割に減少している。

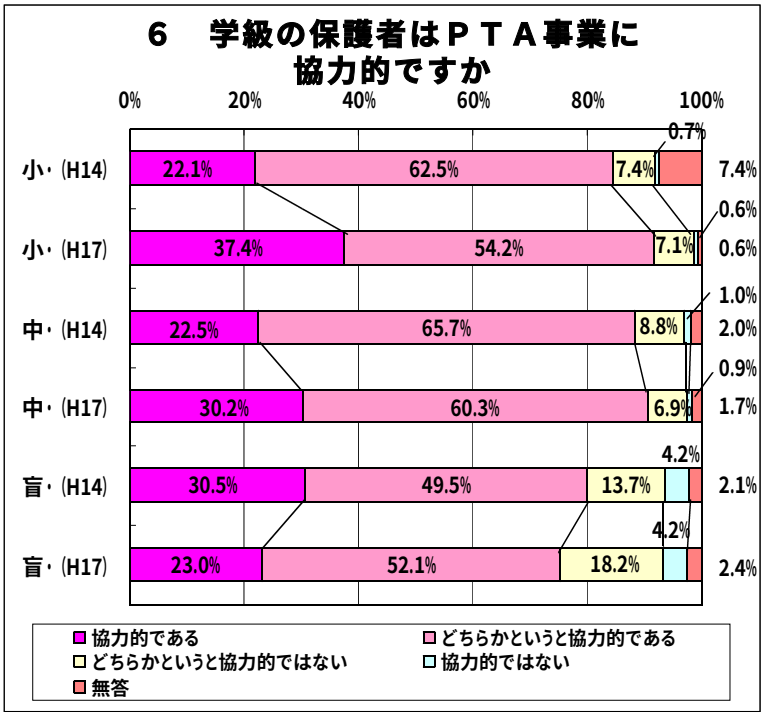
○　「十分に」の割合が増加する一方で、否定的な回答の割合も大きく増加していることから、やや２極化の傾向がうかがえる。寄宿舎で生活している生徒もおり、保護者と随時話し合える状況にないことが想定される。その状況を補うどのような手段がとられているのか等、実状の把握が必要である。

【参考】保護者８－③

7　ＰＴＡ活動について

学級担任　7　学級の保護者はＰＴＡ活動に協力的ですか

⇨「協力的」、小・中担任は９割、盲聾養は８割弱　　**小・中・盲聾養**　**Q15・Q16・　Q15**



○　小担任、中担任では、「協力的」「どちらかといえば協力的」を合わせた肯定的な回答は、前回より増加し９割を超える。

　盲聾養担任では、肯定的な回答が前回より減少し、８割を下回っている。

○　小学校、中学校では、前回よりも協力的な保護者が増えていることがうかがえ、望ましい傾向といえる。

　一方、盲聾養護学校では、協力的な保護者が減少傾向にあることから、その要因を把握し、協力を求めていく必要がある。

【参考】保護者９

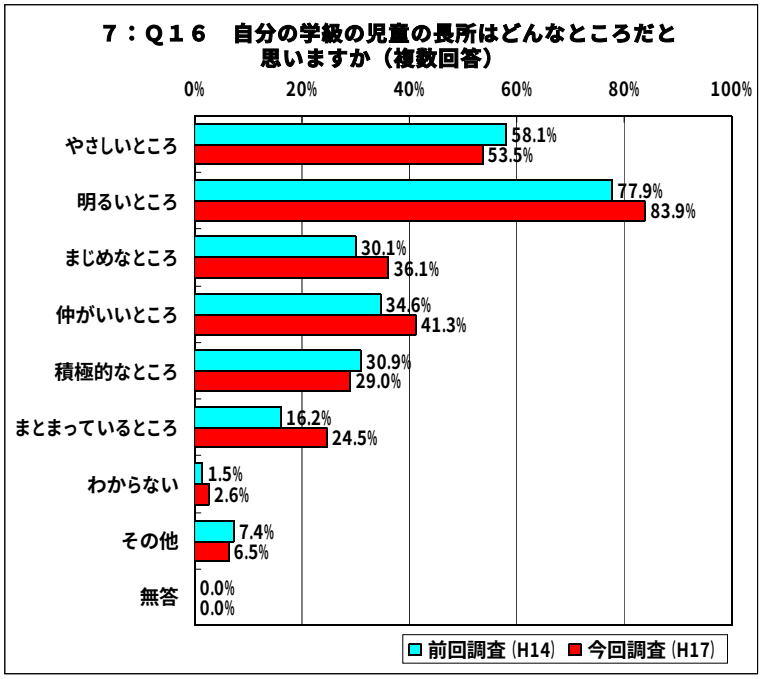
8　学級の児童生徒の長所について

学級担任　8　学級の児童生徒の長所は、どんなところだと思いますか（複数回答）

小・中・高・盲聾養

⇒ **どの校種でも、一番は「明るさ」**　Q16・Q17・Q14・Q16

小学校



《小学校》

○　前回と比較して全体的な傾向に大きな変化はみられない。

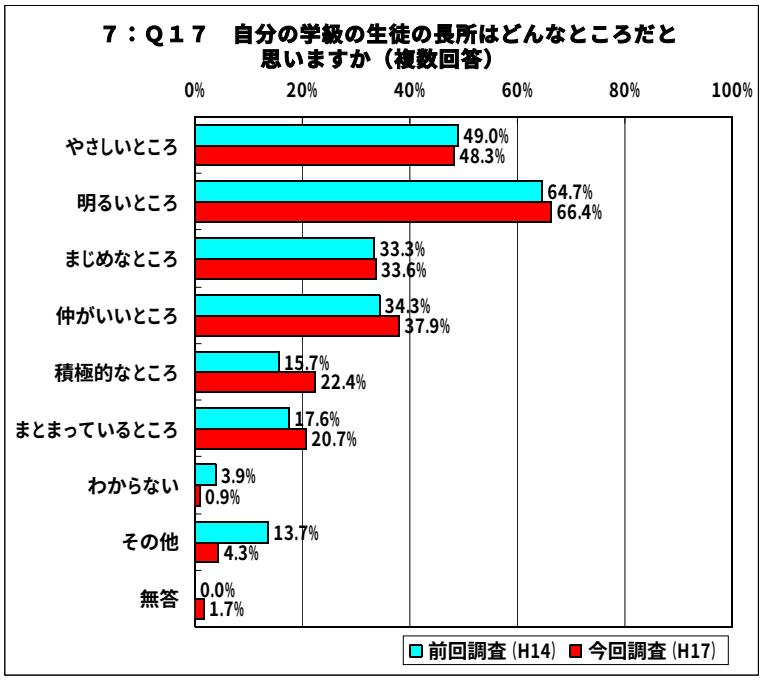
「明るいところ」「まじめなところ」「仲がいいところ」「まとまっているところ」が増加し、「やさしいところ」が減少している。

○　多くの担任が、「明るさ」を長所ととらえていることがわかる。

また、「仲のよさ」「まとまりのよさ」など、友だち関係や学級集団としての要因が、よい方向に変容していることがうかがえる。

【参考】児童生徒９、保護者11

中学校



《中学校》

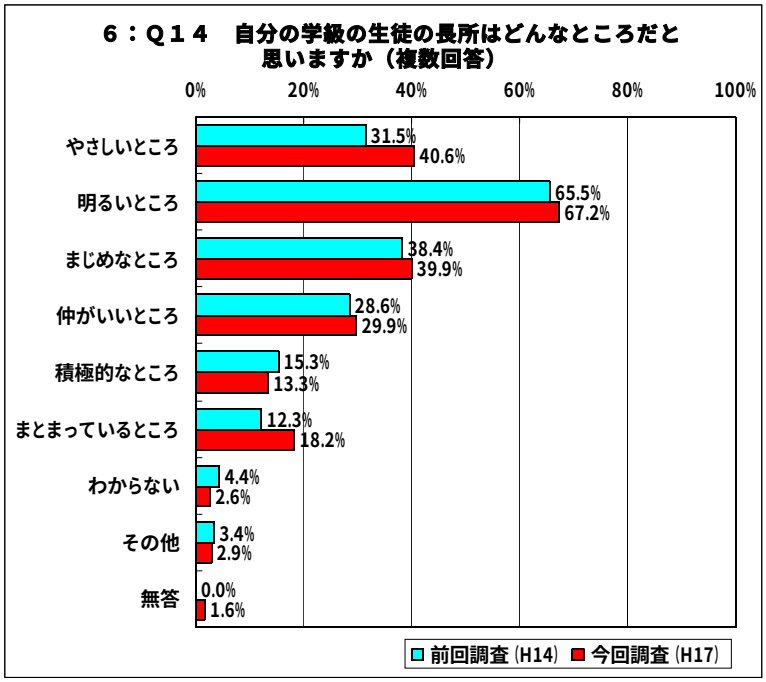
○　前回と比較して、全体的な傾向に変化はみられない。

小学校の傾向と似ており、「明るいところ」が目立って多く、「やさしいところ」が続く。「仲がいいところ」「積極的なところ」「まとまっているところ」が増加傾向にある。

○　比較的多くの担任が、「明るさ」を長所ととらえていることがわかる。「仲のよさ」「積極的」「まとまり」など、友だち関係や学級集団としての要因が、よい方向に変容していることがうかがえる。

【参考】児童生徒９、保護者11

高等学校



《高等学校》

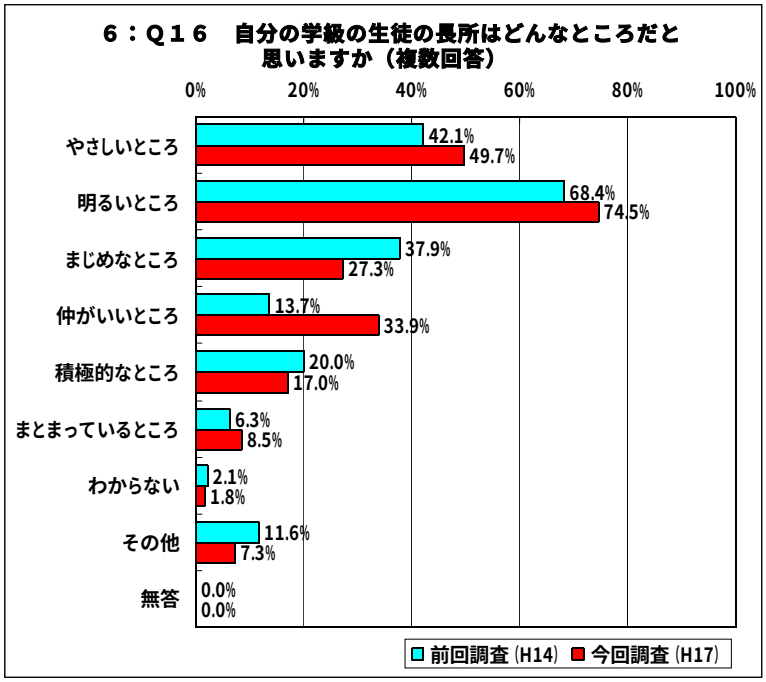
○　前回と比較して、全体的な傾向に大きな変化はみられない。

　前回よりやや増加した「明るいところ」が一番多い。「やさしいところ」が大きく増加し４割を超えている。「まじめなところ」「仲がいいところ」「まとまっているところ」が増加傾向にある。

○　他の校種と同様に「明るさ」を学級の長所と感じている担任が多い。また、「やさしさ」を感じる担任も増加している。学級としての「まとまり」を感じている担任も前回より増加していることから積極性にはやや欠けるが、学級集団としてよい方向に変容していることがうかがえる。

【参考】児童生徒９、保護者11

盲聾養護学校



《盲聾養護学校》

○　前回と比較して、「明るいところ」が増加し、７割を超えている。

　さらに、「やさしいところ」とともに「仲がいいところ」が大きく増加し、「まじめなところ」を上回っている。

○　他の校種と同様に「明るさ」を学級の特徴と感じている担任が多い。さらに「やさしさ」「仲のよさ」など、友だち関係が前回よりもよい傾向にあり、学級集団としてよい方向に変容していることがうかがえる。

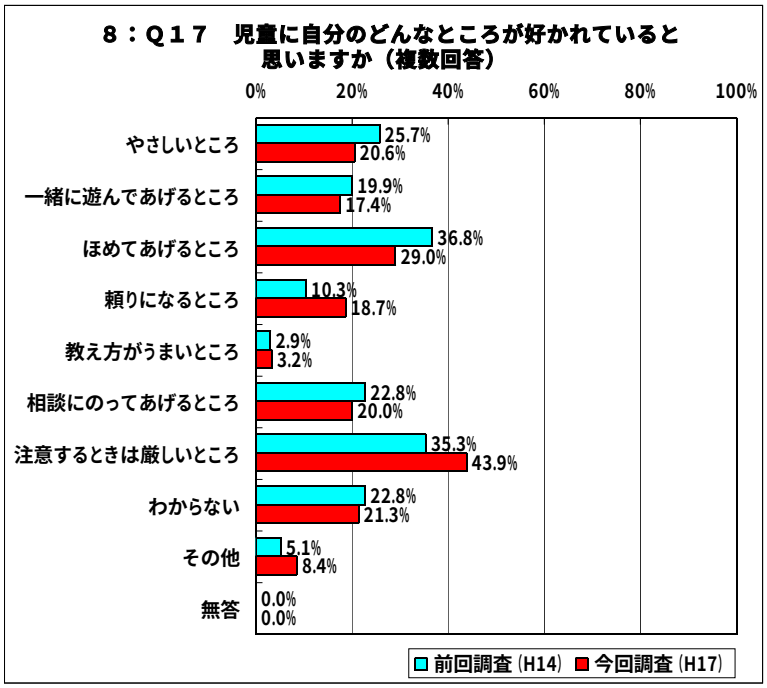
【参考】児童生徒９、保護者11

9　自分（学級担任）が児童生徒に好かれているところ

学級担任　9　児童生徒に、自分のどんなところが好かれていると思いますか（複数回答）

⇒ 小担任「注意する時は厳しく」、　　小・中・高・盲聾養
中・高・盲聾養担任「話しやすさ」　　Q17・Q18・Q15・Q17

小学校



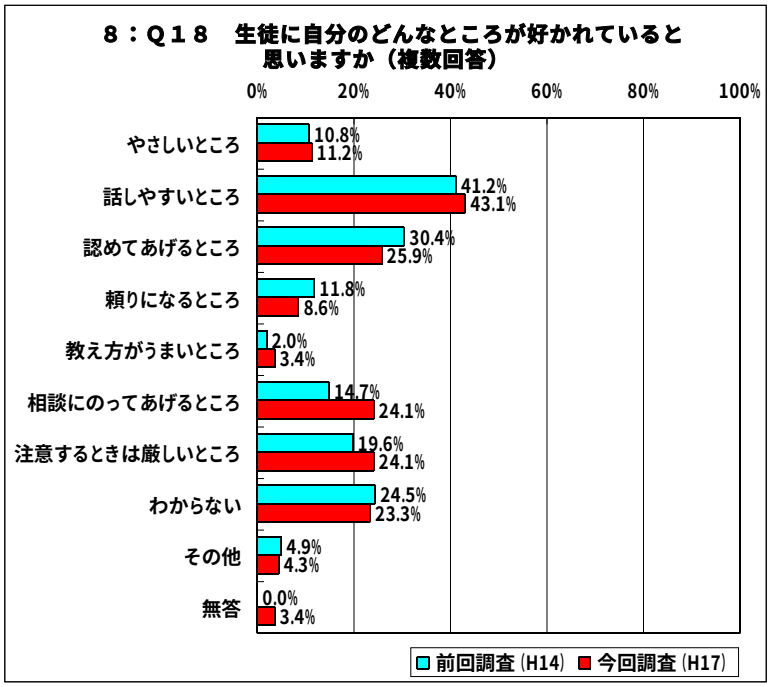
《小学校》

○　前回特に多かった「ほめてあげるところ」が減少し、「注意するときは厳しいところ」が増加している。「やさしいところ」「一緒に遊んであげるところ」「相談にのってあげるところ」が減少し、「頼りになるところ」が増加している。

○　前回と比較して、児童をほめたり一緒に遊んだりする身近な存在というよりは、やや距離感があり、求められればしっかりと対応し、客観的な判断と指導を行っている担任像がうかがえる。

【参考】児童生徒11

中学校



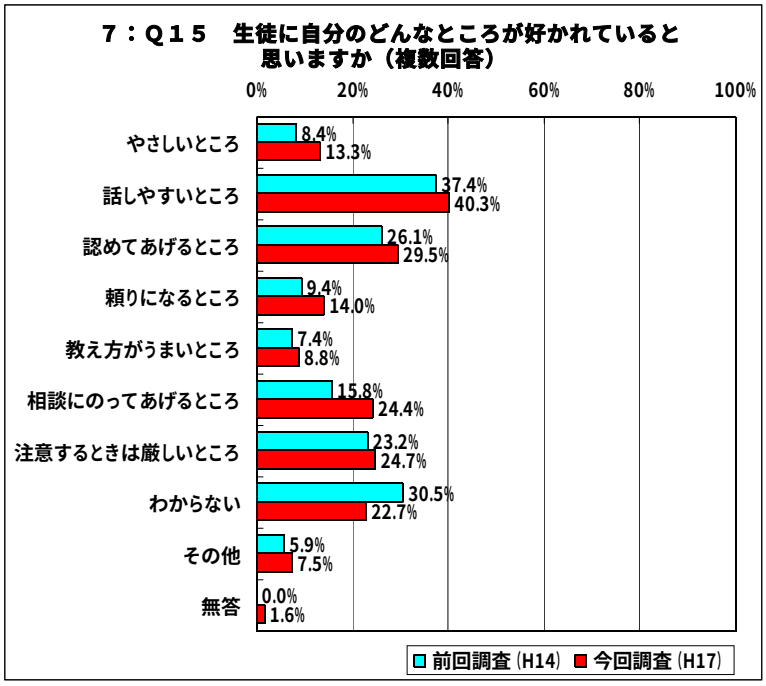
《中学校》

○　前回と同様に「話しやすいところ」が４割を超え一番多い。「認めてあげるところ」「頼りになるところ」が減少し、「相談にのってあげるところ」「注意するときは厳しいところ」が増加している。

○　自分は、生徒にとって「話しやすい」と感じている担任が前回と同様に比較的多い。「相談にのってあげる」の増加等、親しい関わりがうかがえる一方で、生徒との一定の距離感をもって、客観的な判断と指導を行っている担任像がうかがえる。

【参考】児童生徒11

高等学校



《高等学校》

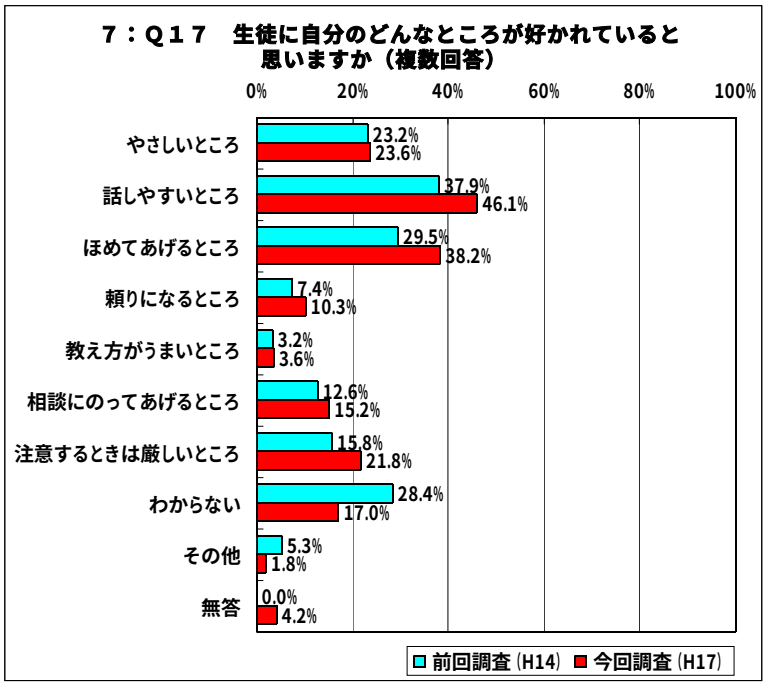
○　前回と同様に「話しやすいところ」が４割を超え一番多い。他の項目も軒並み増加しており、「やさしいところ」「頼りになるところ」「相談にのってあげるところ」の増加の割合が比較的大きい。

○　前回よりも、担任が、話しやすい態度や積極的にほめてあげようとする姿勢であること、生徒との関わりや対応等を自信をもって行っていることがうかがえる。

　一方で、生徒との一定の距離感をもち、客観的な判断と指導を行っている担任像がうかがえる。

【参考】児童生徒11

盲聾養護学校



《盲聾養護学校》

○　前回と同様に、「話しやすいところ」が増加し、半数近くを占め「ほめてあげるところ」も４割近くまで増加している。「注意する時は厳しいところ」「頼りになるところ」も増加の割合が大きい。

○　前回よりも、話しやすい態度や積極的にほめてあげようとする姿勢がうかがえる。

　一方で、やさしく頼りになる存在であるとともに、生徒との一定の距離感をもち、客観的な判断と指導を行っている担任像がうかがえる。

【参考】児童生徒11